



外来での迅速抗原検査

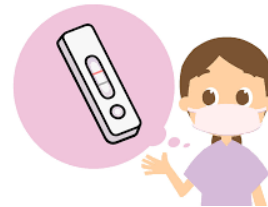
保育所に通っている保護者の方に、「保育園で何かはやっている感染症はありますか？」とお聞きすると、「RSウイルスとインフルエンザがでていると掲示板に書かれていました」などと教えてくれます。一昔前なら風邪としか診断されなかった**感染症の原因菌が、外来で簡単に短時間で診断できるようになりました。**これは様々な病原菌の**迅速抗原診断キッドが普及**してきたおかげです。この検査はそのウイルスが持っている特有の蛋白質を試薬を用いて調べるものですが、**検体中のウイルス量が少ないと陽性にでないのが欠点です。**ウイルス量が最も多く含まれる検体採取場所が鼻咽頭(鼻の奥を擦る)とわかっているため、子どもたちには嫌がられますが、鼻の奥に綿棒を入れて検査をさせてもらっています。現在市販されている抗原検査キッドには、インフルエンザ、RS、ヒトメタニューモ、アデノ、溶連菌、マイコプラズマなどがあります。

このように臨床現場で様々な病原体の診断ができるようになったことは、**病気の重症化の予測や治療方針の決定、施設内での感染対策などに役立っており、その意義はとても大きい**と思います。

パラインフルエンザ

乳幼児から成人まで、かぜ、気管支炎、クループ、肺炎など**様々な呼吸器感染をおこす代表的なウイルス**です。インフルエンザとは全く異なるウイルスで、4種類の型があり、**3型が最も多く検出**されます。3型は1~2歳の乳幼児に感染すると肺炎や細気管支炎をおこすため、**RSV感染症と鑑別が難しい**とされますが、RSV感染症より軽症とされています。

このウイルスは**クループ症状を伴うことが多いのが特徴**です。残念ながら、このウイルスの抗原検査はありません。



5月の感染症情報

溶連菌感染症、RSV感染症、手足口病やヘルパンギーナなどの夏風邪、この3疾患が高いレベルで流行しました。ヒトメタニューモウイルスやパラインフルエンザなどの呼吸器感染症も同時に流行しました。

一方で新型コロナ、インフルエンザの1週間の定点あたりの報告数は1.0前後の少ない状態が続いています。



5月の利用状況

5月の利用延べ人数は91人、1日平均利用人数は4.3人でした。年齢別では、1歳児が43人で最も多く、次いで2歳児22人、3歳児12人の順でした。疾患別では、急性上気道炎が35人で最も多く、次いでRSV感染症33人の順でした。4月初めに流行したインフルエンザは全く姿を消し、感染症情報で述べたようにRSV、ヒトメタなどの呼吸器感染症による入室が増えました。これらの感染症は年齢が低いうえに、治療するまで時間がかかるため利用する期間が長くなり、利用希望者をお断りすることが多くなり、ご迷惑をおかけしました。気温の変動が大きい季節です。くれぐれもご自愛ください。